

(共同リリース)

平成 26 年 12 月 18 日

株式会社MOL JAPAN
株式会社オウ・ティ・ケイ
琉球海運株式会社

那覇港における国際航路の新設

～ 商船三井と琉球海運の業務提携 による
競争力を有した国際航路の誕生 ～

株式会社商船三井（本社：東京都港区虎ノ門、代表取締役社長：武藤光一、日本総代理店株式会社MOL JAPAN、以下「商船三井」）とその沖縄地区代理店である株式会社オウ・ティ・ケイ（本社：沖縄県那覇市港町、代表取締役社長：内間耕、以下「オウ・ティ・ケイ」）は、琉球海運株式会社（本社：沖縄県那覇市西、代表取締役社長：山城博美、以下「琉球海運」）と、那覇港を起点とした輸出入コンテナ輸送の拡大をめざし業務提携します。

琉球海運の定時性、安定性、スピードを活かした台湾航路（那覇港～高雄港）と、商船三井の世界的なコンテナ輸送ネットワークが、台湾（高雄港）で接続します。

商船三井とオウ・ティ・ケイ、琉球海運の3社は、強い競争力と魅力を有した国際航路を沖縄に誕生させ、お客さまに効率のよい物流と良質なサービスの提供をめざします。

沖縄主導型の新たな国際航路サービスの概要

- 業務提携により、商船三井と琉球海運が一体となった国際航路サービス（ウィークリー）を新設します。邦船社による業務提携が、お客さまのニーズに合わせた細やかなサービスや安心を提供します。
- このたびの業務提携により新設する国際航路サービスは、琉球海運の大型RORO船により同船の特性である定時性やスピードを活かしつつ、那覇港から台湾の高雄港へコンテナを輸出。そこから商船三井のネットワークへ接続して、世界各国へ向けて安全で確実な輸送サービスを提供します。特に、香港向けの輸出コンテナは、最短6日で輸送することができます。
- また、この国際航路サービスの新設により、那覇港から直接海外への安定的・継続的な輸出を可能とすることから、本土の主要港を経由して輸送するよりも物流コストの低減および所要時間の短縮が可能となります。

- 他方、沖縄県への輸入に関しても、商船三井のコンテナ輸送ネットワークと琉球海運の台湾航路を通じて、世界各国から直接受け入れることができます。
- 琉球海運およびオウ・ティ・ケイは、沖縄県の顧客の特性などを十分に理解できる地元企業として、お客さまの国際物流を全面的かつ積極的にサポートします。特に、「わかりやすさ」を追求し、輸出入を検討されているお客さまにも気軽にご利用いただけるよう取り組みます。
- 新設された国際航路サービスは、従来にない「沖縄主導型」のものであり、商船三井の世界的なネットワーク、琉球海運の地元最大手としての信頼性、オウ・ティ・ケイの充実した代理店サービスを一体化させてその浸透を図り、お客さまのマインド・シェア拡大をめざしつつ沖縄県内外のシェア獲得に努めます。

進展状況

- 実証実験も兼ねて、12月12日に香港向けに20フィートコンテナを輸出しました。さらに、12月19日にもマレーシア向けに40フィートコンテナを輸出する予定です。
- 輸入コンテナは、来年1月から順次当該航路に切り替える予定です。

以上